

はじめに

豊島特別救助隊は、昭和50年2月に発隊してから諸先輩方が築かれた輝かしい伝統と歴史が積み重なり、ここに発隊50周年を迎えることができました。

我々現役隊員は、この歴史ある豊島救助の伝統を継承すべく強固な絆のもと「咲かせ散らすなオレンジの華」を胸に、より一層一致団結し、精進していく所存でありますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、豊島特別救助隊の50年に携わりご尽力下さったすべての方々に心から敬意を表し感謝するとともに、すべての東京消防庁特別救助隊の益々のご活躍を祈念申し上げます。

令和7年2月吉日
豊島特別救助隊一同

特別救助隊の歴史

1 救助隊のはじまり

特別救助隊の前身は「専任救助隊」と呼ばれていたもので、昭和7年12月16日に発生した日本橋白木屋の火災、同日23日に発生した深川区富川町の大富市場アパートの火災など大規模火災が相次いだことから、昭和8年6月、神田消防署が同署後援会からの協力を得て、フォード・クラックスチャーを改造した救助車に救助器具を積載し、運用したことに始まります。



初めて神田消防署に配置された専任救助隊

その後、専任救助隊制度が正式に誕生したのは昭和10年8月27日であり、神田、芝、麴町、下谷（現：上野）、本郷及び深川の6署に専任救助隊が配置され、機関員1名及び放水救助員2名の計3名で運用しました。

第二次世界大戦が始まるとともに、専任救助隊制度を廃止せざるを得なくなっていました。昭和30年2月17日に横浜市で発生した養老院「聖母の園」の火災を契機に、同年3月7日に専任救助隊を復活させました。

2 救助技術者の養成

昭和38年10月21日から11月9日までの3週間、10名の消防司令補を陸上自衛隊習志野駐屯地・第一空挺団空挺教育隊に委託派遣し、各種救助技術、安全管理のあり方、教育技法等を含む山岳救難（レンジャー訓練）技術を習得させました。

陸上自衛隊習志野駐屯地・第一空挺団空挺教育隊に委託派遣した10名の消防司令補は、帰庁後、訓練指導計画を作成し、指導者として東京消防庁における救助業務の礎を築いていきました。



発足当時の訓練風景

3 特別救助隊の発足

昭和44年8月1日、あらゆる災害現場で専門的に救助活動を行うため、特別な装備と技術を備えた救助隊を創設するとの理由から、麴町消防署永田町特別救助隊を設置し、暫定的に運用を開始しました。

その後、昭和46年6月15日に永田町特別救助隊が、同年10月15日に西新井特別救助隊（昭和51年3月1日に署分割による署名変更に伴い、足立特別救助隊へ隊名変更）がそれぞれ正規運用を開始しました。



初代救助車

ワッペンの由来

セントバーナード犬「バリー号」は、アルプス山中で15年間に40余名もの人を救助したといわれ、世界中にその名を知られています。人命救助のためにあらゆる困難を克服し、災害に立ち向かう特別救助隊の姿が「バリー号」のイメージと重なることから、セントバーナード犬が東京消防庁各特別救助隊のシンボルとされました。



豊島特別救助隊

豊島特別救助隊の発隊

豊島特別救助隊は、昭和50年2月15日に、松涛特別救助隊(平成元年4月1日に署所の配置替えに伴い、渋谷特別救助隊に隊名変更、平成14年4月1日運用廃止)、淀橋特別救助隊(昭和50年4月1日に署名変更に伴い新宿特別救助隊に隊名変更)とともに運用を開始しました。

初 代 救 助 車	昭和 50 年 2 月から昭和 62 年 1 月まで	
二 代 目 救 助 車	昭和 62 年 2 月から平成 11 年 3 月まで	
三 代 目 救 助 車	平成 11 年 4 月から平成 24 年 12 月まで	
四 代 目 救 助 車	平成 25 年 1 月から現在まで	

「東京消防庁特別救助隊歌」

一 男五尺の身体を張って
たとえ火の中 水の底
いざ出陣に 命をかける
我ら特別救助隊
我ら特別救助隊

二 馬鹿よ阿呆と笑わば笑え
俺はやるんだどこまでも
人の命の尊さ故に
我ら特別救助隊
我ら特別救助隊

三 それじゃ行くぜとにっこり笑い
友に託したこの身体
固く結んだ心の絆
我ら特別救助隊
我ら特別救助隊

四 華の都に一輪咲いて
暗いこの世に灯をともす
咲かせ散らすなオレンジの華
我ら特別救助隊
我ら特別救助隊